

Stage8

Don't Look Down

下を見ないで

作・トニー・ブラッドマン

絵・ジョン・スチュアート

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すといいでしょう。

- ・2-3 ページを開いて「これまでのあらすじ」を読んでください。お子さんに、「猛烈な、いかだくだり」のお話を、自分のことばでもういちど話せるかどうか、たずねてみてください。
 - ・池について話しましょう。池の中にはどんなものがあると思いますか？ 池のまわりにはどんな虫が住んでいると思いますか？
 - ・お子さんに、このお話の登場人物に、どんなことが起こると思うかたずねてください。
 - ・水の近くで遊ぶ際の安全について、まとめてみましょう。
- 自分のペースで読むように、お子さんに言ってあげてください。

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

beady キラキラ光る

caught つかまった

micro-copter マイクロ・コプター

flea ノミ

micro-den マイクロサイズの隠れ家

ocean 海

frogspawn カエルの卵

scientific 科学的な

[p. 1]

下をみないで

作・トニー・ブラッドマン

絵・ジョン・スチュアート

[p. 2]

これまでのあらすじ……

「猛烈な、いかだくだり」(A Wild Ride)という本の中で、マックス、キャット、アント、タイガーはマイクロサイズのいかだをつくります。

4人は荒れるいかだくだりで公園を抜けていきます。

[p.3]

そして…… あぶない！ マックス、キャット、タイガーは危機一髪でいかだから飛び降ります。

いかだはこわれてしまいますが、アントはしがみついたままです。アントは水面を流されていきます。アントは池の真ん中にある小さな島に上がります。

さあ、マックス、キャット、タイガーはアントを連れ戻さなければなりません……

[p.4]

マックス、キャット、タイガーは島のほうを見ました。アントはそこで 3 人に向かって手を振りつづけていました。でもいまは、姿がみえません。

そのとき、大きな魚が池から頭をひょっこり出しました。魚のギラギラした目は子どもたちをにらみつけていました。魚が大きな口を開けました。それから、水中に戻り、いなくなっていました。

[p.5]

「やだ！」キャットが叫びました。「あのおそろしい魚がアントをつかまえちゃったのかもしれないわ」キャットは腕時計を見ました。小さな緑色の点が動き回っていました。それはアントが無事であるということを示していました……今のところは。

「行こう、マックス」タイガーが言いました。「作戦をたてなくちゃ——今すぐに！」

[p.6]

そのとき、羽ばたく音が聞こえました。影がひとつ、3 人の頭の上を飛び去っていきました。そこでマックスがひらめきました。

「わかったぞ」マックスが言いました。「マイクロ・コプターを使って、空からアントを救出すればいいんだ！」

[p.7]

「どうやって取ってくるの？」キャットが言いました。「もう雨はやんじゃったし、まわりには人がたくさんいるのよ。元の大きさにはなれないわ。隠れ家にもどるまでに何年もかかるわよ」

「なにか手を考えよう」マックスは言いました。

[p.8]

マックスは小道の脇にある芝生の中へ走っていきました。そこに隠れましたが、地面はぬかるんでいました。足が泥で動かなくなりました。大きなしずくが落ちてきました。イヌがし泥をはねかけて通り過ぎました。

[p.9]

「イヌか……」とマックスは考えました。

ノミのようにすばやく、マックスは濡れた芝生から飛び出しました。そして、通り過ぎるイヌに乗っかりました。

「サンキュー！」マックスはマイクロサイズの隠れ家までくると、そっとささやきました。

[p.10]

マックスは隠れ家に走り込みました。マイクロ・コプターをしまっている巣箱のところまで上っていきました。すぐに、シートベルトを締めて、飛び立つ準備をしました。発進ボタンを押し、空へと上昇していきました。

[p.11]

雨はやんでいたものの、強い風が吹いていました。マイクロ・コプターを操縦するのは楽ではありませんでした。もう少しで茂みに激突しそうになりました。「おっと！」マックスは言いました。怒ったハチがマックスに向かって飛んできました。

マックスはマイクロ・コプターを下げて、池の上を飛びました。

[p.12]

キャットとタイガーは下から手を振りました。「気をつけて、マックス！」キャットが叫びました。マックスは忙しかったので、手を振ることはできませんでした。池は海のように広く見えました。島ははるか彼方にあるようでした。

[p.13]

マックスはマイクロ・ヘリの高度を下げました。昆虫たちが水面をかすめて飛んでいました。そして、マックスは水面の下に巨大な影を見つけました。ごくりとマックスはつばを飲み込みました。大きな魚がそこにいて、様子をうかがいながら、待ちかまえていたのです……

[p.14]

「アント、どこにいるんだ？」マックスは島に着地すると呼びかけました。答えはありませんでした。マックスは泥に足あとがついているのを発見して、そのあとをつけていきました。まるで、ジャングルにいるような気分でした。鳥たちがさえずり、草がマックスのまわりでガサガサと音を立てていました。

[p.15]

アントはもちろん無事でした。本当のところ、アントはすっかり楽しんでいました。「やあ、マックスじゃないか」アントはマックスが現れると言いました。「このカエルの卵を見てごらんですよ。すごいなあ」

[p.16]

「助けに来たぞ、アント」マックスが言いました。「助けてもらいたくなんかないよ」アントは言いました。「楽しんでるんだから！」アントは島がすっかり気に入っていました。そこには昆虫や小さな生き物がたくさんいました。アントのポケットには集めたものがパンパンに詰まっていたました。

[p.17]

「さあ」とマックスは言いました。「ここにはいられないよ。マイクロ・コプターを持ってきたから飛んで帰るんだ」アントはしぶしぶ帰ることにしました。

[p.18]

マックスは自分とアントをマイクロ・コプターにしばりつけました。発進ボタンを押しました。ブン…ブン…ブン…とプロペラが回りました。でも、地上から浮きませんでした。

[p.19]

「ダメだな」マックスが言いました。「重すぎるんだ。ポケットのなかのやつをぜんぶだして」「何だって？」アントがキーキー言いました。「やつじゃないよ。これは科学的な標本なんだ……」マックスはアントをキッと見ました。「あーあ、わかったよ」アントは不満そうに言いました。

[p.20]

マックスは発進ボタンを押しました。こんどは宙に浮かびました。

雨がふたたび降り出していました。大きな雨粒がマイクロ・コプターに打ちつけました。マックスが操縦するのは大変でした。マックスとアントが雨に濡れるにつれて、重さが増していきました。

[p.21]

マイクロ・ヘリはしだいに高度を下げていきました。水面すれすれをかすめました。大きな魚の影が真下で動きました。

「下を見るな、アント！」マックスは言いました。

「そうするよ……」アントが言いました。

[p.22]

そのとき、「ドボン！」という大きな音がしました。それから、もう1回……さらにもう1回。

「ほら！」とマックスが叫びました。「キャットとタイガーが助けにきてくれたんだ！」

[p.23]

キャットとタイガーは池に向かって小石を投げていました。ふたりは魚をおどかして追い払ったのです…… 危ないところでした。マイクロ・コプターはバタバタと音を立てて、回転しながら着陸しました。マックスとアントが出てきました。ふたりとも震えていましたが、無事でした。

「明日は、退屈なことをするのに1票！」マックスは言いました。

[p.24]

ストーリー全体を話してみよう……

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・どうやってマックスはマイクロサイズの隠れ家まで戻った？
- ・マックスがアントを見つけたとき、アントは何を見ていたかな？ アントは、どうして助けてもらいたくなかったんだろう？
- ・池でマックスとアントを待っていたのはなんだった？ キャットとタイガーは助けるために何をしたかな？
- ・この本が気に入りましたか？ その理由は？

この話をまた読んでみるよう、お子さんにすすめましょう。読む自信をそだて、つかえずに読めるようになります。

<ほかにすること>

お子さんに、子どもたちがいかだに乗ってした冒険のことを、もういちど話してもらいましょう。24 ページをヒントにしてください。

お話に登場した生き物について、もっと話しましょう。昆虫の絵を描いてもらったり、このお話の一場面の絵を描くために、昆虫を捕まえてくるよう、お子さんに言ってみましょう。